

アイティ豊岡都市開発 株式会社

決算書類

第24期

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

1. 事業の概要

令和と改元され初の年越しを迎え、新たな展開に期待をかけていたところに、前年より報道の端に上っていた新しい感染症が中国からヨーロッパ、アメリカと範囲を広げ、2月に日本でも感染が出た観光クルーズ船を隔離することから始まったコロナウィルス禍は、新年度となった4月7日に緊急事態宣言が発出され、消毒・手洗い・マスクの着用をはじめとする感染予防や三密の回避などの行動制限を提唱し、国を挙げての対策となりました。反面、飲食業の営業時間短縮や観光などの外出自粛などから経済活動に多大な影響を及ぼす事態となり、すべての産業に影響が出る状況で、誰も予想しえないことで、日本国内だけでなく、全世界が巻き込まれ国によっては、ロックダウンなど封鎖により外出も許さない状況もありました。

COVID-19と名付けられた新型コロナウイルスは、ワクチンもなく感染力が強いため、かなりの範囲で蔓延し、高齢者、基礎疾患がある人などの罹患率死亡率が高いとの報道もあって非常に危険視され、著名人の逝去も合いまって感染力の強さから対人接触等人の交流が大きく制限され、病院・高齢者施設など福祉医療施設の入場・面会などが大幅に制限され、それに伴って、不特定多数の集会、企業関係では株主総会等が集まることなく、書面決議やリモートなどでの開催を余儀なくされ、これまでに経験したことのない状況が出現いたしました。

2020年開催予定のオリンピックは早い段階から取り沙汰されておりましたが、3月24日1年程度延期するとの内容で延期が決定されました。

その後、初回の緊急事態宣言が7都道府県に発出され4月16日には全国に範囲が広がられました。解除は感染者の少ない39県が5月14日に、近畿3府県(大阪、京都、兵庫)が5月21日に、残る5都道県は5月25日解除となり1カ月半の宣言期間が全域で終了しました。

明けた6月くらいから国の支援策として観光等へ旅行費用の宿泊などに支援するGOTOトラベルや飲食費へ補助を行うEATなどの経済補助が行われ、影響を受けていた業態へ支援が実施され応分の効果を博しました。

しかしながら、秋の行楽シーズンを過ぎ、感染予防策で行われていた事項が滞るようになった11月、12月を過ぎたあたりから感染者が増加傾向に変わり、2回目の緊急事態宣言を発出する状況となり、1月8日から感染者数の多い7府県、1月14日からは7府県が追加され2月7までと設定されましたが、減る傾向が見られず、7府県で2月28日に1都3県は3月21日に解除されました。

ワクチンについても医療従事者優先に予防接種が始まりましたが相当期間係る見込みです。

緊急事態宣言から1年が経過して今後どう鎮静化していくのかは今後の課題として注目されています。

24期はアイティにおいても大きな変化が起きた期となりました。一昨年より豊岡市とさとうの両者で検討されていた4階のフロア所有権移転について合意され、9月定例議会に提案・審議が行われました。平成9年の開館以来23年、平成14年に7階フロアを豊岡市へ所有権移転を行い、弊社の再建計画の合意を得てから18年が経過した今日、さとうから経費負担に対しての見直しを求められ、4階フロアをさとうから豊岡市へ売却して経費の軽減を図るとともに駐車負担金も改定し、全事業者に対して固定経費の軽減することで、関係機関等とも合意が得られました。

4階フロアは、豊岡市の所有によりこれまでの商業スペースから行政事業スペースに転換され、子育て支援事業を中心とした事業展開や生涯学習サロンとして高齢者生きがい創造事業の施設整備が図られる予定となっています。

次に、当社の業務状況ですが、基幹業務の駐車場事業は、コロナウィルスの緊急事態宣言の発出により移動について制限されたことから、駅前駐車場に定期利用車両しか見られない日が出現しました。アイティ立体駐車場も核店舗の駐車負担金を見直したことで一般利用者が店舗・施設の時短営業や休業などから館内滞留時間が少なくなり、駐車料金売上はこれまでにない減収状況となりました。

駐車場利用促進については固定収入である定期駐車増への注力と一般利用も視野に入れた効率的な宣伝広告、サービス向上を継続して行いました。アイティ駐車場の今期利用車両は631,276台(1日平均1,739台)の利用実績となり、年間で51,383台、1日平均では142台の減少、前期対比では7.5%減となりました。

売上については4月の緊急事態宣言時には先行きが危ぶまれた状況も一時期の回復傾向などから売上金額は1億4,625万円となりました。

この駐車場売上の一般駐車については空き店舗が解消されたことにより駐車負担金を予定通り計上する見込みでしたが、コロナ禍による影響がアイティ駐車場・駅前駐車場ともども年度当初から減少し、これまでにない低利用台数を記録しました。その後においてもコロナ禍の収束に至らなかったこともあり、移動自粛等の影響から利用者増に戻ることは無い状況でした。

駅前駐車場は指定管理事業者4期目となりました。後半期になってからは芸術文化観光専門職大学の建設工事車両の駐車があり、前年を上回る利用が数カ月続いたことで大幅な減収を避けることができました。一般・定期利用の売上は989万円となり前期対比は181万円減少し、利用台数では54,115台(前期58,387台)で前期比7.3%減とアイティ駐車場以上に一般利用が厳しい状態にあった状況から考えますと、大規模工事が近隣にあったことが幸いであった感じです。

これら駐車場については周辺の駐車場も同様ですが、コロナ収束後において必然的に変わると思われる動きが想定されることから、改善策を探る取組を進めたいと考えます。これまでの傾向は一般駐車場の減少を定期駐車場の増加で補う状況でしたが、来館いただき一般利用が増加する取組や社会情勢の動きが大きく影響することから、今後においても早期に動向を見極め、需要に即した利用展開も検討したいと考えます。

これらを含めた総売上額は1億8,486万円を計上し、経常利益は4,284万円、税引き後当期純利益は2,977万円と(前年度対比75.5%)と資本について利益剰余金がマイナスを脱し2,578万円になりました。来期の大事業となる4階フロアの公共施設整備並びに核店舗、専門店の移転改装等のリニューアルは来館者増につながるものと期待をかけているところです。

会社の再建については、関係各位の多大なるご協力をいただくことにより着実に歩を進めてまいり、繰越利益剰余金のマイナスが解消され2,578万円の利益剰余金に転じています。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染拡大は全世界に及び回復の兆しは感じられません。

インバウンドの再開はめども立たず、オリンピックも開催とはいうものの実施に向けての具体的な動きは代表決定が報じられるものの詳細の報道はありません。社会生活においても移動の自粛に伴い飲食などのサービス産業は時短要請などで先行きの不透明さは解消されていない状況です。

25年を迎える当社にとっても大きな課題となっているところです。核店舗、専門店、行政機関、各金融機関の皆さまのご努力・ご協力・ご支援を賜わり、さらなる努力を重ねこれまで以上に健全経営に取り組んでいかねばなりません。行政当局をはじめ、関係各機関並びに株主各位の皆様のご指導とご鞭撻を切にお願いいたしまして第24期の事業報告といたします。

2. 会社の現況

(1) 資本金の推移

	当 期 末	前 期 末
資 本 金	1億81百万円	1億81百万円

(2) 株式の状況

発行可能株式総数	13,000株
発行済株式の総数	3,620株

(3) 株 主 数 32名 (令和3年3月31日現在)

(5) 取締役及び監査役の氏名・会社における地位、又は職業

(令和3年3月31日現在)

氏名	職名	主な職業
井上 隆俊	代表取締役	
前野 文孝	取締役	豊岡市 副市長
岡部 一志	取締役	㈱さとう 取締役経本部長
澤田 秀夫	取締役	豊岡市 都市整備部長
和田 芳明	取締役	アイティ管理組合法人 副理事長
橋本 勝洋	監査役	㈱BPオアシス 代表取締役

(6) 従業員の状況

(令和3年3月31日現在)

区分	期別	当期末	前期末
従業員数		4	4
男子	正社員	2	2
	臨時社員	1	1
女子	正社員	—	—
	臨時社員	1	1
平均年齢		40.5 歳	39.5 歳
男子	正社員	44.0	43.0
	臨時社員	35.0	34.0
女子	正社員	—	—
	臨時社員	39.0	38.0
平均給与月額		285 千円	277 千円
男子	正社員	378	365
	臨時社員	183	177
女子	正社員	—	—
	臨時社員	203	198

注1. 平均年齢及び平均給与月額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しています。正社員には、出向社員も含まれています。

損益計算書

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

科 目	金 額	金 額
【売 上 高】		
駐 車 場 売 上 高	156,131,299	
業 務 受 託 売 上 高	28,435,633	
手 数 料 売 上 高	299,948	184,866,880
売 上 総 利 益 金 額		184,866,880
【販売費及び一般管理費】		132,873,559
営 業 利 益 金 額		51,993,321
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息 配 当 金	500	
雑 収 入	425,712	426,212
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息		9,570,199
経 常 利 益 金 額		42,849,334
【特 別 利 益】		
補 助 金 収 入		250,000
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		43,099,334
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		13,328,102
当 期 純 利 益 金 額		29,771,232

販売費及び一般管理費

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

科 目	金 額
役 員 報 酬	3,600,000
給 与 手 当	7,983,028
賞 与	1,795,812
給 与 負 担 金	7,411,584
法 定 福 利 費	2,029,810
福 利 厚 生 費	208,105
旅 費 交 通 費	106,893
通 信 費	593,088
交 際 費	11,062
減 価 償 却 費	35,970,141
リ ー ス 料	308,400
保 險 料	1,145,420
修 繕 費	3,641,000
水 道 光 熱 費	2,526,954
事 務 用 品 費	528,114
消 耗 品 費	2,430,922
租 税 公 課	31,347,150
警 備 費	381,600
保 守 点 検 料	1,912,400
業 務 委 託 費	7,897,490
広 告 宣 伝 費	120,000
支 払 手 数 料	194,000
諸 会 費	17,364
地 代 家 賃	753,853
会 議 費	5,959
新 聞 図 書 費	34,367
共 益 費	19,890,819
雑 費	28,224
合 計	132,873,559

株主資本等変動計算書

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	181,000,000	△3,985,574	△3,985,574	177,014,426	177,014,426
当期変動額					
当期純利益		29,771,232	29,771,232	29,771,232	29,771,232
当期変動額合計	-	29,771,232	29,771,232	29,771,232	29,771,232
当期末残高	181,000,000	25,785,658	25,785,658	206,785,658	206,785,658

個別注記表

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

◎棚卸方法 実地棚卸の方法によっています。

◎評価基準 最終仕入原価法による原価法に基づく低価法によって評価しています。

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しています。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。

計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜処理を採用しています。

貸借対照表等に関する注記

減価償却累計額の金額

有形固定資産の減価償却累計額 1,042,040,767円

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の数

前期末株式数（発行済普通株式） 3,620株

当期増加株式数（発行済普通株式） 0株

当期減少株式数（発行済普通株式） 0株

当期末株式数（発行済普通株式） 3,620株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たりの純資産額 57,123.10円

一株当たりの当期純利益 8,224.09円